

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	しながくどう福岡東(児童発達支援)				公表日	令和7年3月29日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		空間をわける、提示の工夫などで安心安全に過ごせるよう工夫している。	療育見学の充実を図り、保護者の方の安心感へ繋げていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			療育見学の充実を図り、保護者の方の安心感へ繋げていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	玩具を少なめに刺激を少なめにしています。	療育室が広く、活動時に他のことが気になってしまうなどあるため、今後パーテーションなどの使用も検討。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		空間をわける、提示の工夫などで安心安全に過ごせるよう工夫している。	活動に応じた空間の利用ができるよう職員のスキルアップを図る。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		お子さんの特性に合わせて小部屋で活動を行ったり、クールダウンが必要なお子さんのダウンルームとして使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		お子さん一人一人アセスメントに基づいて支援を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者の方からのご意見を把握し、その内容についてミーティングを開催するなど業務改善を目指している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		定期的なミーティングを行い、業務改善を行っている。	ミーティングの目的を明瞭化することで業務改善を図る。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		今後、コンプライアンス部署を設置する
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	適宜、職員間で助言を行っている。	社内研修の充実を図る。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		アセスメントを行った上でお子さん一人一人に合った支援を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		保護者の方と職員で共通のアセスメントツールを使用。セラピストの評価も加味して作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		定期的なカンファレンスを行い、共通認識の元支援を行っている。	カンファレンスの充実を図る。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			かかわりや環境設定についての共通認識や統一を行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		共通のアセスメントツールを用いている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		アセスメントに基づいて発達状況に応じた支援を行っている。	ご本人への支援、ご家族への支援についてより具体的、より明確に保護者へ示していく。また、就学時の移行支援についても充実を図る。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		適宜、相談・助言を行っている。	カンファレンスの充実を図る。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		評価に基づいた内容を行う中でお子さんが飽きずに取り組めるよう興味・関心が持てる内容を取り入れるなど工夫している。	達成度の情報共有を充実させる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		ご利用日には必ず個別の時間を確保し、小集団活動と組み合わせて行っている。全体で行う集団活動の時間も設けている。	グループ編成と環境設定の工夫をし、よりお子さんが過ごしやすいよう取り組む。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		スケジュールを可視化して、情報共有を行っている。	カンファレンスの充実を図る。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			ミーティングの充実を図る。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		連絡帳に活動の内容を詳しく記載するとともに、評価内容については情報共有しながら支援を行っている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的なカンファやミーティングで振り返りを行っている。	カンファの頻度・質の向上を図る。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		主担当制度を取り入れ、担当者が情報の把握、参画をしている。	引き継ぎや情報共有の仕組みを明瞭化する。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	通園している保育園・幼稚園へは、その都度情報共有ができるようにしている。	情報共有の機会を増やし、支援の統一を図っていく。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		通園している保育園・幼稚園へは、その都度情報共有ができるようにしている。	就学時の学校への情報共有などお子さんがより過ごしやすいよう取り組んでいく。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2		1年以上経過を追えたお子さんについては、今後就学時の情報提供など行っていく。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	1	療育センターでの研修を実施。	研修などの機会を設けていく。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	3		必要に応じて開催を検討。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		連絡帳アプリや送迎時、面談時にお子さんの発達状況について情報共有を行っている。	面談の頻度と室の向上を図る。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		3/15(土)に保護者会を開催。	今後定期的に開催予定。また、たくさんの方に参加していただくためアンケートを実施予定。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		見学时、契約時に詳しくお伝えしている。	より丁寧な説明を行い、共通認識を持つことで安心して通っていただけるよう努める。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		お子さんの発達状況を踏まえて、保護者の方の意向を確認している。			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		計画書の内容とともにご自宅でできることのご提案もしている。	面談の際に、目的や効果、進捗状況をより具体的に伝えることでより支援の充実を図っていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		面談時や送迎時、連絡帳にて適宜相談に応じている。	社内研修の充実、職員のスキルアップを図る。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	3	3/15(土)に保護者会を開催。今後も定期的に開催予定。	周知を早めに行い、多くの参加を促す。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		送迎時や連絡帳でご自宅でのお困りごとなどへの対応についてお伝えしている。	面談を行うとともに保護者の方どうしの交流の場の充実を図っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		SNSを活用して活動の様子を発信している。	活動内容がわかりやすいようSNSの発信の充実を図っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			「管理体制の周知」を行うことで安心してご利用いただけるよう努める。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		必要に応じて保護者の方への意思伝達の配慮を行っている。	お子さん一人一人へのかかわりの統一や表出手段の未確立なお子さんへの支援を行っている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3		必要に応じて今後検討。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	2	定期的開催。	開催した後、必要な情報を提供していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2	定期的開催。	開催した後、必要な情報を提供していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		利用開始前に確認している。	定期的に調査を行い、把握を徹底する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		利用開始前に確認している。	食事の提供は基本的には行っていないが、弁当持参の児童もいるため、環境設定など工夫をしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			避難訓練を行い、仕組みについて話し合いを行う。保護者へも必要な情報を提供する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			定期的に周知を行う。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			お子さんの特性に応じた対応をできるよう職員の指導を行っていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	2		研修を行っていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1		研修の充実、保護者への周知を行っていく。